

# バイオロジクスフォーラム第 11 回学術集会の開催にあたって

バイオロジクスフォーラム 代表世話人

豊島 聡

日本における産業振興の柱の一つは再生医療等の医療イノベーションを進めることであり、その重要性は広く認識されています。その推進のため再生医療製品等について安全性確保に配慮しながら、審査手続きを簡素化し、早期実用化を可能にすることが考えられ、改正薬事法と再生医療新法が国会で承認され、有用なバイオロジクス（バイオ医薬品、再生医療製品・遺伝子治療製品、ワクチン）の開発に対する期待は非常に高いものがあります。バイオロジクスの早期実用化には、開発・承認審査等に関わっている産官学の協力が必須です。そのためにバイオロジクスに関する産官学の意見交換の場である本バイオロジクスフォーラム学術集会を有効に活用していきたいと考えています。

昨年同様、本年の学術集会も三分科会“バイオ医薬品”、“ワクチン”、“再生医療・遺伝子治療”に分かれて、講演による話題提供と討論を行います。

バイオ医薬品分科会では、「バイオ医薬品と周辺技術の広がり」をテーマに、有用な新薬の開発が困難となってきた今日、重要性が増してきている抗体医薬品を始めとするバイオ医薬品の開発動向、また、医療費の抑制の観点等からも重要と考えられるバイオ後続品開発の動向と課題、さらに周辺技術として患者選択のための必要性

が注目されてきているコンパニオン診断薬開発に関する話題が提供されます。それとともにこれらバイオ医薬品に関するトピックスについて討論します。

ワクチン分科会では、「日本の安全安心なワクチンの開発の為に」をテーマに、安全安心なワクチンの開発の為に求められるワクチンの品質に関し、新規ワクチンに特有に検討すべき課題について討論します。また、国内におけるワクチン研究開発支援の成果の話題提供とその実用化の為の課題についても討論します。

再生医療・遺伝子治療分科会では、「再生医療製品・遺伝子治療製品のための生物由来原料」をテーマに再生医療製品開発企業と生物由来材料・培養試薬等周辺基盤技術開発企業から再生医療を支える生物由来材料・培養試薬などの開発を国内で推進するための課題について、話題が提供されるとともに、関係者間における討論により課題の認識共有のための議論を行います。

最後に本年の学術集会においても、最先端で御活躍の諸先生の御講演とご出席の産官学の皆様方による建設的かつ活発な討論により、有用なバイオロジクスの迅速な医療現場への提供が促進されることを期待して挨拶とさせていただきます。